がはっきりせず，判断できなかったのが，ここに明かになった。わかって見ると *E. gibbiflora* DC. の学名は最新園芸辞典に出ているが寒鳥巣なる名は載っていない。しかし前記メキシコ産のものでこれがカントリスの名で呼ばれるものの正体であることがはっきりした。が，カントリスの名はない。したがってこれを正式の和名としてよいものか識者の示教をまつ。

□Hiroshi ITONO: **Studies on the Ceramiaceous Algae (Rhodophyta) from Southern Parts of Japan.** Bibliotheca Phycologica Bd. 35, 499 pp. J. Cramer (1977)。糸野洋氏（鹿児島大・理）は 1962 年来，九州南部から南西諸島一帯を主にドレッジとスキューバ潜水により海藻採集を行い，その分類学的研究を手がけてきたが，この度紅藻類イギス科を対象とした本を出版した。扱われる種類数は 73，属の数は 33 で，新種 12，新型 1，新組合せ 7，新属 3（*Compsothamnionella*, *Tanakaella*, *Gordoniella*）を含む。なお別にサエダ属の 1 種 *Microcladia leptophyllum* Tanaka をダジア科に移し，これを基本種とした新属 *Sympodothamnion* を設立している。各種類については，記載文のほかに，栄養体，無性生殖器官，雄性及び雌性生殖器官と果胞子体の構造が，図を伴って章を別にして記述される。さらにイギス科の分類系，属の検索表，図版等が続き，全体は約 500 頁に及ぶ。巻末の豊富な図は困難なこの科の種の同定に役立つ。さらに研究の対象となる地域の拡がることが期待される。

（千原光雄）

□F.K. SPARROW: **Rhizidiomycopsis bullatus.** Mycologia **69** (no. 4) : 661-666. July-August 1977. 遊走子のある菌類中で，前方に只一本の羽型ベン毛のある遊走子を生ずる種類は極めて少く，全ツボカビ類約 800 種のうち僅かに 15 種位で，これを以てサカゲカビ綱（Hyphochytriomycetes）が設けられ，6 属が認められている。我国では 25 年前の尾瀬原調査の際に，私共が発表した *Rhizidiomyces japonicus* が，今でも唯一の種である。ミシンガン大学の Sparrow 博士は，この種の著しい特徴を認めて，1960 年に新属 *Rhizidiomycopsis* を設けた。さて最近届いた表記の論文では，ミシガン州のミズゴケ湿原から，本属の第 2 の種が発見されたことを報告している。そして私共の記載が正確で，属の概念を殆んど変えることなしに第 2 の種を加えることが出来ると記している．博士は本年（1977 年 8～9 月）フロリダのタンパで開催された，第 2 回国際菌学大会の会長に推され，老齢にも拘らず 1 週間の会期間中，1300 名の参加者の間を奔走して居られた。その大会が終って 1 月も経ぬ 10 月 2 日に，ミシガンの Ann Arbor で急逝された。心臓マヒとのことである。そしてこの論文が 50 年に亘る研究生活中の最後（?）の作品となった。ここに尾瀬原とミシガン湿原とを結ぶ目に見えぬきずなを改めて紹介し，故 Dr. Frederick K. Sparrow (1903～1977) の冥福を心から祈る次第である。

（小林義雄）